

学校法人佐久学園



佐久の薰風

No. 9

2018(平成30)年12月31日発行

発行人 学校法人佐久学園

編集人 学園通信編集委員会

<http://www.saku.ac.jp/>

CONTENTS

- 秋桜祭&信陽祭開催…2・3
- 学生の活躍…2
- 看護師特定行為研修指導者講習会開催…4
- 国際交流教育センターの活動…4
- 信州介護学研究会…4
- 領域紹介〈精神看護学〉…5
- 教員の活躍…5
- サークル活動紹介…5
- キャンパスピックス…6・7
- 新任教員紹介…6
- 就任のご挨拶…7
- voice of Graduates・佐久学園から…8

佐久大学

写真：土屋 道成

第11回 秋桜祭 第31回 信陽祭 開催

STEP ~足並みそろえて一歩ずつ~



秋桜祭実行委員長
中澤 友介



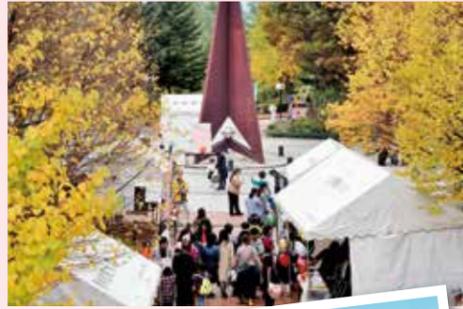
信陽祭実行委員長
小柳 あすさ

今年の大学祭のテーマである「STEP～足並みそろえて一歩ずつ～」には、学生みんなで足並みそろえて一歩ずつ着実に進んでいこうという思いを込めました。そのテーマ通り、みんなで協力し、足りない部分は補い合い、素晴らしい大学祭を創り上げることができました。

豪華賞品を用意した大抽選会やパフォーマンスによる炎のパフォーマンス、人気芸人によるお笑いライブ等、学生のみでなくご来場の皆様にも楽しんでいただけたと思います。一日目は小雨となりましたが、二日目は天候にも恵まれ、ステージ企画や模擬店などの屋外での企画が大変盛り上がりしました。大学祭二日間を通して多くの方々にお越しいただき、過去最高の来場者数となり、大きな達成感を得ることができました。ご来場下さった皆様に心より感謝申し上げます。

また、今年はフットプリントやフットダーツといった、足育に関した新たな企画や模擬店に挑戦しました。準備、運営には大変なことも沢山ありましたが、スタッフ同士の連携を怠らず大学生、短大生、学年関係なく一致団結し、テーマにあるとおり足並みを揃えて一歩ずつ進むことができました。この大学祭を通して経験したことは、関わった全ての学生にとってとても価値のあるものであり、将来に繋がるものだと思います。

今年の大学祭が無事に開催できたことは、ご協力くださいました地域の方々、関係者の皆様のおかげです。この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



企画係長
中野 みらの

お笑いライブ等ステージ企画を担当しました。大変だったことはタイムスケジュールを決めることです。ゲストの方の希望に合わせて調整するのが大変でした。無事に大学祭が成功してよかったです。



アロマハンドケア
柳橋 美沙

アロマハンドケアを担当しました。大変盛況でブースを急遽増設しました。多くのご来場者様と担当の学生双方がタッチングの効果や楽しさを実感し、笑顔溢れる2日間となりましたこと、感謝いたします。



模擬店：お茶研究会
「HAMA★Café」
矢代 ひなの

毎年恒例のパフェとぜんざいのカフェを出店しました。今年は例年以上の売り上げと模擬店コンテストで8度目の1位を頂き大盛況に終わりました。メンバーと交流を深め、良い思い出を共有できました。



展示：クラフトサークル
中村 綾佳

今年の大学祭ではハーバリウム作製体験を行いました。瓶や花を自分で選びオリジナルの作品を作ること、楽しんでもらったと思います。たくさんのご来場ありがとうございました。

学生の活躍

ボランティア活動に積極的に参加しています



看護学部 清水 菜結
福祉施設の夏祭りのお手伝いや、地域のイルミネーションの飾り付けなど、バラエティに富んだ経験ができます。子どもからお年寄りまで幅広い方々と話すことができ、とても楽しいです！



看護学部 木南 和奏
地域の輪に入りたいと思い、ボランティア活動に参加しています。地域の方々の温かみに触れ、とても心地よく充実した時間を過ごすことができました。今後も微力ながら地域活動に協力していきたいです。

認知症ケア准専門士認定試験に合格しました



信州短期大学部 渡辺 陽香
物心付く頃には既に認知症だった祖母と毎日喧嘩していたことを、認知症を勉強した今、とても後悔しています。今後は資格を活かし、認知症の理解が不十分な家族の支援も充実させたいと考えています。



信州短期大学部 伊早坂 由佳
受験に向けた直前講義では、授業以上に深い内容を学ぶことができ、認知症への理解がさらに深まりました。実習直後だったため大変でしたが、無事合格できとても嬉しく思います。



後夜祭の花火を請け負っていただいたのは、株式会社マルゴーさんです。山梨県にある花火の総合メーカーで、花火の製造や花火大会での打ち上げに加え、コンサートやミュージカル、テーマパーク等の花火演出もされています。プリンセス天功の花火専属もされています。

内閣総理大臣賞の受賞や競技会での数々の優勝等輝かしい実績を持ち、YouTubeにたくさん動画がアップされるほど人気のあるマルゴーさんですが、後夜祭の花火を担当してくださるのは、マルゴーの代表取締役社長 齊木智さんが信州短期大学の第一期生というご縁があるからです。

名物となっている後夜祭の花火は、近隣の方々も毎年楽しみにされているようです。今年も盛大な花火で大学祭のラスト飾っていただきました。

シリーズ領域紹介⑤

精神看護学

心とは非常に脆いものですが、非常に強いものでもあります。精神看護学概論では、心についての働き、発達理論、心と身体の関係、危機状態とセルフコントロールなどを学びます。また、新聞紙上の現代の社会問題と対策から、メンタルヘルスの多様性と重要性に学生自身が気づく授業もあります。

精神的な不調や疾患の回復支援のために、精神看護援助論では、コミュニケーション能力を分析し看護者としての自己理解に努めていますが、この学修は全ての基礎となると考えています。また、当事者の



方々に、病の体験や医療者への期待などを語る授業もいただいています。

精神看護においては、その方の強みを理解して関わるといふ、ケア提供者としての自覚が求められます。実習では対象者と向きあい、自身とも向き合っ自問自答することが、「ひと」としての成長につながると思っています。さらに、私たち教員も自身をふりかえることができる奥深い領域です。

SERIES ④ 教員の活躍



信州短期大学部 教授 矢羽田 明美

学生たちとロックソーランを踊る地域交流サークルの活動を続けて約10年になります。この活動は、短大の全ての学生が参加してロックソーランを踊ることで、学科を超えた関係づくりをしたいという思いから始まっています。

ロックソーランを始めとする多くの踊りは、地域で活動する「長土呂メープル」の皆さんに教えて頂いています。長土呂メープルの皆さんとは、大学祭や地域のお祭り、施設でのイベント等に一緒に参加しています。活動の中で皆さんからは「若さや元気をもらっている」と言ってもらい、学生にとっては思いやりや助け合いの心、コミュニケーションを学ぶ場にもなっています。

中には、おとなしく不器用な学生もいます。そういう学生が勇気を出してこのサークルに入り、そして皆の前で踊る姿にはとても感動します。学生時代の頑張りや達成感が、将来何かしらの糧になることを願って、学生たちや長土呂の皆さんと、卒業生の西川小扇輝空先生のご指導も頂きながら、一緒に楽しく活動しています。

私にとってこの活動は生きがいだと感じています。皆さんに感謝です。



サークル活動紹介

スケート部

昨年に引き続き、インカレ大会で2冠を達成する事ができ嬉しく思います。佐久大学へ来て沢山の方との繋がり・サポートのお陰で自分のやりたい事が出来ているなど実感しています。来年3月には、ロシアで開催されるユニバーシアード大会への出場が決定しました。通称「大学生のオリンピック」と言われ、各国の代表となった大学生が集まり行われる大会です。ただ出場するだけでなくしっかり結果を残したいです。そのため日々努力を惜みず練習に取り組んでいきます。(山浦 美和子)



地域交流サークル

私達地域交流サークルは短大2年生8人、1年生6人で活動しています。地域のお祭り、行事に呼んで頂き長土呂メープルの皆さんと一緒に踊りを披露しています。全員揃っての練習は授業や実習の関係でなかなかできていませんが、空いた時間を見つめ各々で本番に向けて練習しています。サークル内も明るい雰囲気楽しく活動しています。今後も活動を続け地域の皆さんと交流を広げていきたいと思っています。(新海 妃菜)



ぴあサークル

ぴあサークルでは、中学校や高校へ行き、生徒の皆さんが自分の将来について考えるきっかけとなるような出前授業を行なっています。もし自分や彼女が望まない妊娠をしてしまったら、自分たちはどういった選択をするかを考えてもらったり、デートDVについて理解してもらうために劇をしたり、グループに分かれて意見交換をしてもらうなどをして、性と生について考えることを目的とした授業をしています。(岩波 みさと)



男女バレーボール部

男女バレーボール部は週2日練習を行っています。最近では、男女共に大会に参加し、女子は3位以内に入るなど輝かしい成績を残しています。部員には未経験の人が半数近くおり、男子の大会メンバーは6人中3人が未経験者です。経験問わず誰でも楽しくバレーボールができます。バレーボールを通して他学年との関係づくり、運動不足解消を目的として毎週活動しています。学生生活を充実させたい方、たくさん体を動かしたい方、ぜひ体育館に足を運んでみてください!(田中 祐介)



看護師特定行為研修指導者講習会開催

厚生労働省の委託を受け、平成30年度看護師の特定行為に係る指導者育成事業を開催しました。本講習会は、特定行為研修の指導者として携わる予定の医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療関係者を対象として、特定行為研修の質の担保を図るため、当該研修制度の趣旨及び内容等を理解し、効果的に指導を行うことのできる指導者の育成を目的としています。ワークショップ形式で行い、県内外から98名の参加者がありました。

- 第1回：平成30年10月6日(土)会場：本学
- 第2回：平成30年11月18日(日)会場：長野県看護協会会館
- 第3回：平成30年12月8日(土)会場：本学

参加者からは「1日では学びきれない内容だった」「実際に研修を修了した人の活躍事例を知りたい」「毎年定期的な開催を希望する」など多くの意見がありました。看護師特定行為研修は、平成27年10月から開始された新制度のため、医療関係者や国民への周知の必要性を再認識しました。



国際交流教育センターの活動

<日台介護福祉交流事業>

公益社団法人日本台湾交流協会(外務省管轄)より委託を受けて、AsianWiseと3社間契約を結び全国初の試みとして、9/26～11/23、台湾の介護従事者および行政関係者10名を受け入れ「高齢者ケア研修」を実施しました。



<JICA日系研修(ブラジル)>

日本の地域における要介護高齢者へのケア及びシステムについて学び、自国の高齢者ケアの改善に資することを目標とし、昨年度に引き続き、JICA横浜より第2期生の6名の研修生を11/10～12/5の期間受け入れました。既存の施設を高齢者ケアへ有効活用すること、介護が職業として認められていないブラジルで、法案の制定へ向けた提案、介護士養成コースの設置等に向け関係者が情報交換を行いました。



なお、今年度は上記の他に台北医学大学、台北護理健康大学、タイ、アフガニスタン、エジプトなどから研修生を受け入れる予定です。

信州介護学研究会

第7回信州介護学研究会(介護環境改善研究会)が平成30年8月25日(土)に本学で開催されました。

今回は長野県知的障がい福祉協会の協賛により、障がい者作品展を初めて同時開催しました。

午前は、「介護と落語のコラボレーション～笑う門にはいい介護～」と題して落語家林家源平氏による自身のヘルパー体験にもとづくトークと落語を楽しみました。



午後は、「教科書に載らないいいはなし」をテーマに、特別養護老人ホームのべやま 柏木彩氏、小規模多機能型居宅介護上野の家 渋谷留美氏、障害者支援施設たてしなホーム 榎野希恵氏、宮澤千絵氏、株式会社ナガサカ宅老所若草野菊 長坂毅氏による実践発表と会場参加者との意見交換が行われました。

参加者全員で介護のやりがい、働きがい、介護の明るいあすに向かってあらためて考えるよい機会となりました。(関口昌利)

11/12 中央日本四県サミット

本学が会場となったサミットで、新潟、山梨、静岡、長野の県知事が足裏測定を体験しました。



11/14 知事表彰に選定

本学が参画する足育普及推進事業が知事表彰に選定され、表彰式と成果発表会に出席しました。



11/17 公開講座

わぞら街中ステーション老人看護専門看護師の田中和子氏を講師に迎え「認知症高齢者の「食」について～最後まで「食」を楽しむには～」と題した講演会を開催しました。



10/20-21 第11回 秋桜祭
第31回 信陽祭

模擬店や展示、ステージ発表に加え、フットプリントやフットダーツ等の足育企画も行い、過去最高の来場者数となりました。



11/2 立誓式

短期大学部1年生が、第1段階実習を前に、誓いの詞を唱和し、2週間の実習に臨みます。



11/9 県庁で記者発表

産学官連携で開発した「足裏測定装置」の成果を発表する記者会見を行いました。



9/15 公開講座

ミモザ株式会社総合研究所の本田孝一氏を講師に迎え「お口の中をきれいに、元気に～食事介助と口腔ケア～」と題した講演会を開催しました。

9/23 NAGANO EXPO 2018

「足からの健康」ブースにて、フットダーツ・フットプリントを通じて足育事業を紹介しました。



10/10 国際福祉機器展

東京ビッグサイトで行われた「第45回国際福祉機器展」に短期大学部1年生33名が参加しました。



10/12~15 スケート部
インカレ2種目連覇達成



第91回日本学生氷上競技大会ショートトラックスピードスケート競技で、山浦美和子さんが500M・1000Mで2連覇を達成しました。

7/18 ザンビア共和国プロジェクト研修

女性の健康づくりに関するプロジェクトの研修生10名がびあサークルの学生と交流会を行いました。



7/20 台北護理健康大学学生研修

学術交流協定を結ぶ台北護理健康大学の学生が、本学で1か月間の研修を行いました。



9/1 ミニ公開講座

「足の健康：自分で行うフットケア」と題して、フットケアサロン足美人 代表の小野澤清子さんにご講演いただきました。



9/6 ナーシングセレモニー



半年間にわたる実習を前に、看護学部3年生のナーシングセレモニーを行いました。

6/23 7/16 8/11 オープンキャンパス

より佐久大学を知ってもらう企画として新たに「ワークショップ」を実施しました。



6/30 地域の高等学校へブース出展

佐久長聖高校の文化祭「聖祭」で、聴診器の体験や性格診断を行うブースを出展しました。



6/30 7/1 保健事業ボランティア参加



佐久市とマイクロストーン(株)が行う地域住民を対象とした保健事業がスタートし、学生がボランティアとして計測を行いました。

6/4 第1回 SAKU 看護管理研究会

新任の看護師長のみなさんを対象に全6回の研究会を開催しました。マネジメントの基本について探究していきます。



6/23 7/21 8/6 8/11 9/29 オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスを5回開催しました。



就任のご挨拶

副学長 佐藤 嘉夫



①社会調査に基づく社会福祉の実証研究(高齢者・地域・政策)
②福島県伊達市
③園芸・山歩き・溪流釣り・演劇・音楽鑑賞
④昨年の4月に学術顧問、この6月から主に新学部構想の推進役を担う副学長兼準備室長を仰せつかっています。ケア専門職養成をとりまく社会状況は困難に満ちていますが「ミネルヴァのふくろうは黄昏に飛ぶ」ということわざもあります。私は年老いた一介の助っ人にすぎませんが、ただ救いの神が現れるのを待つだけでなく、教職員の皆さんと知恵と力を合わせて、小力を尽くしたいと思えます。〔神は自ら助くるものを助く〕



事務局長 秋山 賢一

①事務局
②佐久市
③人間観察、レーシングカート
④平成29年8月に入職しました。佐久学園に入職するまでは、民間企業で法人営業をしていました。実は10数年前に佐久学園に営業で訪問したことがあります。その時の印象は、学生の皆さん一人ひとりが外部の私にとっても丁寧にあいさつをしてくれ、とても気持ちよく帰路についてくれたことを思い出します。あいさつは全てが始まる第一歩。私も皆さんが元気になれるあいさつをしていきたいと思えます。

新任教員紹介

①担当領域 ②出身地 ③趣味 ④自己PR
2018年5月～11月に着任された先生方です



看護学部 助手 櫻井真智子

①成人看護学
②長野県
③猫の世話
④看護について、今までとは違う視点で学生と学んでいきたいと思えます。



看護学部 客員教授 ベーレ・ルッツ

①ドイツ整形外科靴マイスター
②ドイツ・オーバーハウゼン
③バイク、旅行、乗馬、スキー
④看護教育からきちんと靴医学発祥のドイツ整形靴理論を学べるのは佐久大学が日本では初です。皆さんと一緒に学べる日を楽しみにしております。



新学部設置整備室 客員教授 青木 紀

①ケア論
②愛知県
③スキー、散歩
④専門職のためのケア論入門をまとめているところです。この年齢になってまた研究に目覚めています。



新学部設置整備室 客員教授 桜井達雄

①物理、地学、環境分野
②佐久市(現住所は上田市)
③旅行、スポーツ観戦
④高校現場で理科(物理、地学)や環境分野を担当していました。少しでも大学、学生のお役に立てよう頑張ります。

「さくらの小径」完成

5号館南側駐車場の一角からテニスコート脇をぐるっと巡る「さくらの小径」が完成しました。この事業は、信州短期大学開学30周年・佐久大学開学10周年の記念事業の一環で、片桐学参与が担当しました。

小径は、信州短期大学開学15周年の際に植えられた桜の樹を間近で鑑賞できるルートとなっていて、満開の時期には桜のトンネルが楽しめます。



佐久大学古本募金スタート

「佐久大学古本募金」は皆さまからご提供いただいた本、CD、DVDの売却代金を、佐久大学図書館の充実に役立てるプロジェクトです。

読み終わった本・聴かなくなったCD・観終わったDVD等がご自宅に眠っていませんか。ぜひご提供ください。

古本募金の流れ



申込方法

WEBまたはお電話からのお申込みが可能です。

■ 佐久大学古本募金の詳細はこちら

<https://www.furuhon-bokin.jp/saku/>

Voice of Graduates

卒業生の声 No.7



長野県厚生農業協同組合連合会
佐久総合病院佐久医療センター
助産師

結城 文子さん

佐久大学別科助産専攻
平成24年度修了

Q1 卒業してから現在まで

A1 卒業して1年間は佐久総合病院の産科病棟に勤務し、その後、病院の再構築により、佐久医療センター周産期センターに異動し5年目になります。

Q2 現在の仕事内容

A2 妊産婦の看護に加えて、婦人科、小児外科、耳鼻科等ベッドが空けば何科も受け入れる病棟で、助産師、看護師として働いています。

Q3 入学にいたる経緯・動機

A3 自分自身の出産を通じ、助産師という職業に強く憧れました。4人目の子どもを保育園に預けて看護学校に通い、看護師として14年勤務し、その後佐久大学別科助産専攻に入学。26年越しの夢が叶いました。

Q4 仕事で大変なこと

A4 産後のお母さんのそばでもっとゆっくり話を聞いたり、授乳をみながら今後の育児について一緒に語りたい、そんな理想が日々の忙しい業務の中ではなかなか実現できません。

Q5 仕事でうれしいこと

A5 1人目のお子さんを医療センターで産んだ産婦さんやご家族が、次の出産の際に私の顔を覚えてくださり「前回とてもお世話になりました」と言われることです。

Q6 大学で学んで役に立っていること

A6 数多くのグループワークを経験し、年齢が異なる人たちと人間関係が築けました。娘より若い人たちと今も楽しく働くことは幸せです。

Q7 学生へのアドバイス

A7 実習中に受け持った産婦さんからいただいたお手紙を今も宝物として持っています。対象者に一歩踏み込んで関わると、実習はかけがえのないものになります。

Q8 今後の目標

A8 もうすぐ定年になります。大きな施設で働くのは残りわずかですが、自分自身が健康である限り、新しく母になる「お母さん」たちの味方として支援していければと思っています。

佐久大学が中核となる産学官連携で「足裏測定装置」を開発

県の「現場課題解決型医療・福祉機器開発事業」補助金を活用し、「集団検診用足裏測定装置」を開発し特許を取得しました。この装置により、瞬時に足裏の撮影と画像処理が可能となり、計測時間が大幅に短縮されることで、集団検診への活用が見込まれます。

佐久大学が参画する「佐久発！足からつくる身体の健康」が知事表彰に選定

堀内学長が会長を務める佐久市足育推進協議会の足育推進事業が、H29年度地域発元気づくり支援金の優良事例として知事表彰に選定されました。



今年のノーベル賞受賞者の本庶佑さんは、研究においてぶれない事が大切と話されていました。難しいことと思えますが、目標に向かってぶれずに前進できると良い結果がついてくるのでは…。
先人の言葉に学びたいと思います。
(弓削)

